

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	リコリズム		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 14日		～ 2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年 1月 14日		～ 2026年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性に応じた具体的な支援が行われている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚支援や事前予告など、発達特性に応じて構造化された支援を行っている。</li> <li>・子どもの家庭背景やその日のコンディションにも配慮し、状況に応じて職員が側に寄り添うなど柔軟な対応を心がけている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的なアセスメントに加えて日常の中での変化や行動の分析を行い、理解を深める。</li> </ul>
2	職員間で情報共有を行い、支援方針の統一を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの小さな変化や、聞き取りの中での情報などを翌日にはMTGを通して共有している。</li> <li>・定期的にケース会議を行い、各職員の意見を出し合う機会を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議の実施回数や内容を充実させ、継続的な振り返りができる体勢を整える。</li> </ul>
3	教室の目的に沿った支援の質向上を目指し、支援方法の工夫やスキルアップを継続的に行い、子どものニーズに応じた支援提供に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の活動をもとにした振り返りと支援方法の見直し</li> <li>・発達特性や支援方法に関する研修・勉強会への参加</li> <li>・子どもの反応や変化を踏まえたプログラム内容の調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間でのケース検討や振り返りの充実</li> <li>・発達特性や支援方法に関する研修・学習機会の継続的な確保</li> <li>・保護者との情報共有を通じた支援内容の調整</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流が活発ではない	利用者の支援で手一杯になっている。	市など運営する、事業所フェアなどへ積極的に参加する。他の事業所の取り組みについて知る。
2	家族に対する支援プログラム(保護者会・イベント開催)が少ない。	開催日時の調整の難しさや、講師となる人材の不足。	職員の専門性をより充実させていける知識の獲得ができる業務設定を行う。保護者様が参加できる研修会などの案内をする。
3	保護者同士の交流機会の少なさ	保護者会の開催頻度が低い	定期的に保護者会を開催する。